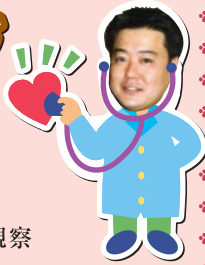


## 院長からのメッセージ

院長 石黒英昭

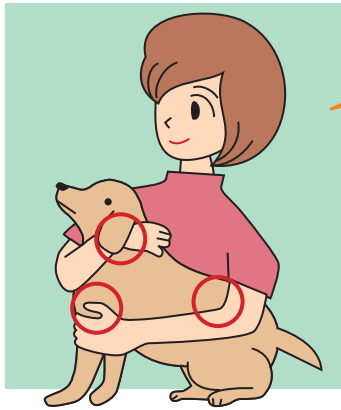


今回で7号となったニュースレターでは、日頃診察をしていく相談を受ける歯と目の病気について説明しています。目やにはないか、口の中は大丈夫かよく観察してみてくださいね。

動物は言葉を話せないため、飼い主さんの話がとても重要となりますので、症状等なるべく細かくお知らせ下さい。

## お家でやってみよう!

ワンちゃん、ネコちゃんの耳掃除や爪切り、目薬をすることはすごく大変ですね。そこで、ワンちゃん、ネコちゃんに苦痛を与えず、飼い主さんにとっても安全な抱き方をご紹介します!



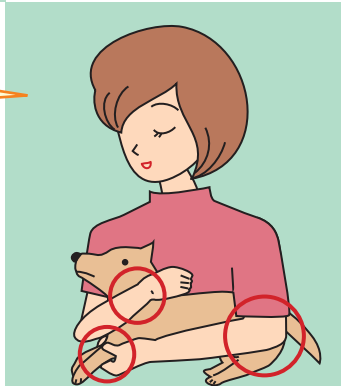
### 中型犬～大型犬の場合

首、肩、腰を自分に引きつけるように押さえ固定しましょう。

※台の上に乗せてあげると固定しやすいです。

○ → Point! ポイント

### 小型犬の場合



右、左前足をしっかり持ち、首、腰を固定します。

ぜひ参考にしてみてくださいね!



## 歯の健康を守ろう

ワンちゃん、ネコちゃんの歯が何本あるかで存じますか?

### ワンちゃん

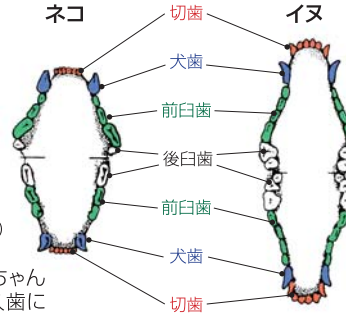
- 乳歯(赤ちゃんの歯) 28本
- 永久歯(大人の歯) 42本

### ネコちゃん

- 乳歯 26本
- 永久歯 30本

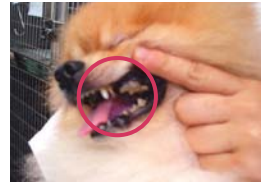
(ちなみに人は、乳歯20本、永久歯32本)

ワンちゃんは生後2～7ヶ月で、ネコちゃんは生後4～6ヶ月の間で乳歯から永久歯に生えかわると言われています。



## 乳歯遺残(にゅうしいざん)とは?

乳歯と永久歯がうまく生え替わることができず、永久歯が生えてきた時点でまだ乳歯が残っていることを乳歯遺残といいます。右の写真は、犬歯に乳歯が残ってしまったワンちゃんの歯です。小型犬ではこのような乳歯遺残が多く見られます。遅くとも、生後1年経っても乳歯が残ってしまうようなら、永久歯の成長に悪影響を及ぼし、歯石も付きやすくなり歯周病の原因となりますので、乳歯を抜くことをお勧めします。心配な方はいつでもご相談下さいね。



## 歯石はとってもこわい...

歯石とは、食物のカスなどが石灰化したもので、体にとっては大変有害な物質です。歯石の付き始めは柔らかいのですが、だんだん固くなり、歯肉を圧迫するようになります。そして、歯肉炎を引き起こし、口臭もひどくなります。歯石の悪影響を受けるのは、口の中だけではなく、体に回ると色々な臓器を冒します。例えば、心臓に入ると細菌性心内膜炎、肝臓に入ると肝炎、骨に入ると骨髄炎など、恐い病気を引き起こす可能性があります。



歯石が著しく付いた歯

## 歯の病気は予防できる!

歯の病気の最大の原因は歯石です。歯の病気を除去すれば歯の病気は予防することができます。超音波装置で歯石を取っていきます。ただし、ワンちゃん、ネコちゃんはずっとお口を開けてくれないので、麻酔をかけて行います。前述に挙げた乳歯遺残も麻酔が必要となり、残っている乳歯を抜いて、歯石除去も行います。



歯科用器具

## 歯みがきをしましょう。

### <初級編>

指にガーゼを巻いて(あるいは軍手をはめて)歯と歯肉を軽くマッサージします。

### <中級編>

液状やペースト状の歯磨き剤をつけて、指サックタイプの歯磨きで歯と歯肉を軽くマッサージします。

このとき、人間用の歯磨き剤は胃腸障害を引き起こしますので、使わないで下さいね。

### <上級編>

歯磨き剤をつけて歯ブラシで磨いて下さい。歯ブラシセットは当院でも置いてありますのでご相談下さい。

歯磨きを毎日行えば、歯石の95%は除去できるという報告があります。ワンちゃん、ネコちゃんも最初はお口の中に手を入れられる事に抵抗しますが、ゆっくりと時間をかけ、上手にできた時はほめながらやって下さい。



歯ブラシセット  
(歯ブラシ、指サック、歯磨き剤)

## 定期的に歯科検診を。

歯が生えそろう2～3ヶ月頃、永久歯が生え始める4～5ヶ月頃、生えそろう8～10ヶ月頃、その後は1年に1回を目安に歯科検診を受けることをお勧めします。“歯は命”というコマーシャルが以前ありましたが、まさにその通りです。



## まいちゃん、はっちゃん、あさちゃんの



## しつけのポイント

### 新しい家族を迎える時には...

#### ■先住犬への思いやりを忘れずに

人の子供と同様にワンちゃんも家族の愛情に敏感です。特に成犬になるまで人とだけ暮らしてきたワンちゃんにとって新しい家族(人の赤ちゃん、仔犬)が増えることは、とても大きな出来事です。それまで穏やかだったワンちゃんでも新しい家族がやってくることでトラブルが起きる可能性があります。何より大切なのは先住犬をないがしろにしないこと。家族の愛情が新参者に移ったとなれば、先住犬はどうしても嫉妬心を抱きます。先住犬を立てる気持ちで接することが重要です。

#### ■常に先住犬を優先する

いきなり仔犬中心の雰囲気を作るとはやめましょう。先住犬にはこれまで以上に声をかけ、愛情が移ったという不安を抱かせないようにして下さい。まず先住犬がいて、その次に仔犬がいるという順位づけを常にはっきりさせます。食事・グルーミング・遊びなど、先住犬を優先させてあげて下さい。仔犬が先住犬のまわりをウロウロしている時は、おもちゃやおやつなどのご褒美をあげて気をそらし、仔犬に優しい態度だったら十分にほめてあげましょう。新しいワンちゃんを迎えた場合、一般的には先住犬が上位になります。しかし先住犬が気の弱いワンちゃんや新しいワンちゃんが強い場合、順位が逆転することもあります。2頭目のワンちゃんを迎えるならこのような事態も覚悟しておきましょう。

